



調布稲門会 会報

2019.6 第50号

年2回(1月、6月)発行

事務局 〒182-0022

調布市国領町 7-56-14

Fax 042-489-6507

E-mail toumonkai@gmail.com

URL (HP) <http://chofu-tomon.jimdo.com/>

編集責任者 高原浩 柵木真也



**稲門会・三田会交流特集** 多摩川・野川クリーン作戦、カニ山芋煮会にも交流の輪

調布稲門会と調布三田会の交流が深まっています。これまでの総会への相互来賓派遣、ゴルフなど同好会レベルでの懇親早慶戦に加え、最近では春秋の多摩川、野川クリーン作戦での交流、さらには秋の「キテネ」カニ山芋煮会への三田会参加などすそ野が広がっています。交流で親睦を深めるだけでなく年末福祉バザーのようにお互いに切磋琢磨して地域社会により貢献できるような効果も期待されます。

(編集部・高原浩) 冒頭の合成写真は五十嵐真会員制作

◇春の多摩川クリーン作戦

4月14日朝、調布市主催の多摩川クリーン作戦に稲門会から13人、三田会から岸野千賀子会長含め4人が参加して現場で合流。小一時間で作戦終了。長友貴樹市長と全員の記念写真を撮った後、いつものお茶会の場所である京王多摩川駅南口の「カフェ大好き」に向かいました。桜もまだ満開状態、三田会と合わせ12人が参加して「稲門会の年間事業」や「三田会の音楽会ほかの事業」などの話題で盛り上がりました。もともと稲門会内部のお茶会でしたが、「ただ来て解散するのももったいない」と岡田文男会長の

声かけに三田会の河村秀明会長(当時)が応じて恒例化しました。昨年春から秋を含め今回で3回目。世話役の関口憲三幹事は「両会の今後の交流がますます盛んになりそうな気配を感じた」そうです。

◇カニ山芋煮会

組織活性化を目指す「キテネ」プロジェクトの一環として2016年秋に始まったカニ山芋煮会。年々規模も拡大し新規会員の参加も増えました。2018年秋はサプライズ、そこに三田会の面々7人が初めて参加してくれたことです。毎年、芋煮会当日の午前中に野川のクリーン作戦があり、稲門会と三田会の交流が

ありましたが、稲門会の芋煮会参加呼びかけに気持ちよく応えて頂いたものです。参加者は合わせて28人という過去最大の芋煮会となり、大いに楽しみ、校歌の交換もして意義ある一日となりました。「また来年もやりましょう」と声を掛け合いました。岡田会長は「両者共催イベントの実現はまだ早いかもしれませんが、いまはお互いのイベントに参加し合うことが効果的。稲門会会員の皆さんも11月の芋煮会にはぜひご参加を！」と呼びかけています。

#### ◇三田会合同懇親ゴルフ、文化イベントなど

ゴルフ同好会は単独コンペのほか、年2回（春、秋）三田会との合同懇親コンペを開催、親睦を深めています。しばらく中断していましたが、2017年から再開、2018年は6月（21人参加）と11月（14人）に開催しました。また三田会主催の「秋の音楽会」（毎年10月）には稲門会からいつも4、5人が参加。たづくり小ホールで開かれ著名人の子弟らセミプロ級ミュージシャンが音を奏でて楽しんでいます。この

ほか最近では三田会主催の深大寺ホテル観賞会や神代植物公園内での花見会にも参加打診され、このうちホテル観賞会には参加しました。また三田会は厳冬期の調布市民駅伝競走大会（会場：味スタ+都立武蔵野の森公園）に毎年、出場していますが、稲門会もどうかと誘われています。まだ実現はしていませんが、検討に値するテーマかもしれません。

一時期、年末恒例の調布市福祉バザー販売に際し、「寄付額で三田会に追いつき追い越せ」と頑張ってそれを実現したこともあります。しかし「令和」の時代、調布を地盤に活動する両校校友会は交流を深め協力しながら地域貢献に尽力してこそ存在意義が高まっていくものと思われます。5月18日、稲門会総会の来賓挨拶に立った岸野三田会会長は「三田会の設立以来、年ごとに稲門会との交流が深まっています。今後ともよきライバルとして末永くお付き合い下さい」と交流の深化・発展を熱く語りかけました。

## 調布稲門人 第2回 高齢者施設でオカリナ演奏—福祉ボランティアに情熱傾ける—

松野宏さん(74) 昭43教育（インタビュー・構成 編集部・高原浩）



「ボランティアはまだ1年だが、みんな楽しみにして待っていてくれるのでずっと続けていきたい」。去年の春、世田谷の高齢者介護施設に入居している自分の母親に聴かせたオカリナ演奏だが、施設内で評判となり、ボランティアの定期演奏会が実現した。数カ月後には地元上石原の高齢者の集まりの場にも広がった。世田谷は月1回、参加者は約20人、100%車椅子（写真上）。上石原は「ふれあいの家」で月3回、参加者は80代前後が約30人、家から通っ

てくる。まさにたった独りで手掛ける“魂の演奏会”。

上石原では軽い上下肢の筋肉トレーニング等の体操が中心。オカリナの出番はそのあと。レパートリーは80曲以上。そこから毎回参加者になじみのある文部省唱歌やポピュラー曲から2曲を選び、それを「誤嚥防止にいいから」といって大声で歌ってもらっている。どの曲にも必ず事前に調べた来歴を述べる。そのあと讃美歌やクラシックから1曲選び、ソロ演奏を聴いてもらっている。毎回、選曲、歌詞のプリントづくり、演奏を一人でこなすが、ボランティアをさせて頂いている、聴いて頂いている、という気持ちがあるから、全然苦にならない。

オカリナはイタリア生まれの陶器製でとても柔らかいホッとする音だ。68歳で先生についた。小学生と一緒だった。高校時代、吹奏楽でクラリネットを吹いていた。楽譜も読める。が、きれいな音を出すのは簡単ではない。6年経つ今も練習、練習だ。

旧満洲・奉天生まれ、名古屋育ち。地元の高校から早大教育学部（英語英文科）入学。房子夫人は同学科の同級生。卒業後、生保会社に就職、定年まで勤め上げた。ただ「英語をちゃんとやらないと死んでも死にきれない」の思いが心のどこかにいつもあった。48歳の時、一大決心。横田基地で数年個人レッスンに通

い、縁あって在日米国商工会議所の個人会員になれた。そこでメンバーシップ関係委員会の委員として14年在籍した。“英語”が松野氏の本来のキーワード、ライフワークだが、今年、後期高齢者に仲間入りするのを前に、今度は“オカリナ”による新たなライフワークが本格始動する。

## 2019 総会

### 会員・来賓 80 人余が出席、大盛況—第 38 回総会

#### 懇親会はジャズ・アトラクションやビンゴゲームに沸く（編集部・高原浩）

2019年5月18日（土）、2019年度（第38回）定期総会が午後2時から調布市文化会館「たづくり」で開かれました。総会・記念講演は8階の映像シアター、懇親会は12階大会議室の2会場を使い、会員・準会員59人と、長友貴樹調布市長、大学本部、調布三田会や近隣の三多摩支部稲門会の来賓20数人の計80人余が出席、今年も大盛況となりました。

総会では岡田文男会長が「再来年2021年は調布稲門会創立40周年という節目の年。記念事業を検討中ですが、楽しいイベントを企画したい。会員や市内のOBの皆さんも稲門会活動に楽しく参加できるように活性化を図って参ります」と挨拶。（写真下）



続いて岡田会長を議長に選任し、2018年活動実績報告/収支決算および監査報告、2019年活動計画/予算計画/役員・幹事人事案などの議案を担当役員が順に説明して可決しました。

今年の記念講演は早稲田大学先端生命医科学センターの梅津光生教授の「早稲田大学の先進医療への挑戦」。医学部を持たない早大の学際分野での新たなチャレンジについてユーモアを交えながら熱っぽく講演しました。（講演要旨は別項参照）

懇親会では、いつもお世話になっている正直屋グ

ループさんの出張レストランのサービスで握り寿司をはじめ和洋中盛り沢山の料理を堪能、アトラクションゲストに迎えた早稲田ハイソサエティ・オーケストラのジャズバンド演奏を楽しみながら心地よい雰囲気の中で話が弾みました。（写真下）



宴もたけなわとなり、石田欽也副幹事長司会によるビンゴゲームが始まり会場は一気に熱気が高まりました。さらに懇親会の定番となった嶋田浩一幹事十八番の「第二校歌 人生劇場」口演に合わせて全員が人生劇場を口ずさみ、そして午後7時、応援部OBの秋沢淳雄幹事リードによる締めくくりの校歌斉唱でお開きとなりました。

#### ◇人事（5月18日）

**[新任] 副会長（幹事）** 潮田健太郎<昭50 理工>▽副会長、会計坊野美代子<昭53 教育>▽会計監査（副会長）石井宏和<昭45 商研>▽幹事、山口泉<昭46 商>▽幹事、大塚公久<昭51 法>▽幹事、原田敦夫<昭52 法>▽幹事、大浦広己<昭55 政経>▽幹事、萩原稔<昭55 教育>

**[退任] 副会長、** 堀龍之介<昭38 理工>▽監事、安松董矩<昭37 教育>▽幹事、松村啓之亮<昭38 法>▽幹事、中野慶子<昭50 教育>

## 2019 総会

### 講演『早稲田大学の先進医療への挑戦』

早稲田大学先端生命医科学センター・総合機械工学科教授 梅津光生氏（昭49理工）



私の人生は結構大変で、入学の時は東大の試験がなかった。就職しようと思ったときはオイルショックが起り、行きたかった自動車メーカーの採用がなく、大学院に行った。そうしたら今度は東京女子医大に行けということで、毎日犬を殺す実験だった。私は動物

が大好きで、それがトラウマになり、実験で動物を使わないテクノロジーや人工臓器を作る仕事をしてきた。

機械工業は失敗の連続で、それを積み上げて日本のものづくりは頑張ってきた。スティーブ・ジョブズは「イノベーションを起こすとき人はミスをする。大事なことはミスをすぐに認めて、次のイノベーションを起こすこと」と言っているが、これは本当に正しい。私は TWins（東京女子医大・早稲田大連携先端生命医科学研究施設）にいる。T は東京女子の

T、W は早稲田の W、ins はインスティテューション、つまり研究所のことです。医学とか医学部ではなく、全く違った新しい価値を生む環境を作ったことに世の中の人たちは喜んでくれている。

両大学の医工連携は 1965 年からやっている。私は大学院の 74 年から参加した。早稲田には医学部はないが、医療と密接な関係を持つ日本のキーパーソンが結構いる。第一線の医学に医師ではない、われわれが貢献している。

私の研修室の助手がベンチャー企業を始めた。心臓手術のトレーニング装置を作り、外科医の腕を劇的に向上させている。

大隈重信は「怒るな、愚痴をこぼすな、過去を顧みるな、望（のぞみ）は将来に置け、人のために善をなせ」と言った。どこまでできるかわからないが、人のために善をなせ、ということに頑張っていきたい。

（要約・柵木真也 昭59政経）

## 元気はつらつ！同好会

【ワングル同好会】代表 石倉毅（昭36理工）

天野凡子（昭56文）

### 小江戸川越 歴史散歩を満喫

平成から令和へ。過去最長の大型連休初日 4 月 27 日に情緒あふれる小江戸「川越」を訪れました。西武新宿線本川越駅に 10 時半に到着して街歩き開始。最初に静かな佇まいの仙波東照宮を参拝し、続いて徳川家とのゆかり深い喜多院へ（写真真右）。広い境内には客殿・書院等、重要文化財指定の建物が並び、江戸城から移築された家光公誕生の間や春日局化粧の間を見学しました。一体毎に異なる様々な表情や姿の五百羅漢も面白くてじっくりと。

そろそろ空腹を感じたところで『寿庵』にて名物の蕎麦やてんぷら、鰻を食して、次は川越城本丸御殿を目指します。うっかり地図を見誤って遠回りとなってしまいましたが、そこはワングル同好会。全員元気に歩いて頂いて、皆さんに感謝。本丸御殿は玄関部分と大広間、家老詰所を残すのみですが、川越藩十七万石を実感する風格で、庭園も大変美しく見応えがあり、がんばって歩いた甲斐がありました。



その後、川越のシンボル、木造三層櫓の「時の鐘」や明治時代からの趣き深い蔵造りの街巡りを楽しみました。最後に、家で待つご家族ご所望の川越名産サツマイモの焼き芋を求めてお店を探し回り（サツマイモの和洋菓子はたくさんあるのですが、シンプルな焼き芋屋さんには案外無い）めでたくゲット！して今回のワングル活動は完了となりました。

参加者（敬称略） 芦澤友雄、天野凡子、石倉毅、石倉恵子、岡田文男、川島義幸、齊藤宗之、濁川マサ、堀井時枝、松村啓之亮

**元気はつらつ！同好会****【硬式テニス同好会】 代表 坪井貞光（昭40理工）****テニスボールを追いかけて回しがっちり健康維持を！**

東京オリンピックも近くなり、スポーツに関心を持たれる方も多いと思います。健康維持にはやはり適度に自分の体を動かすことが大事です。調布稲門会にはこれに適した同好会が多数ありますが、硬式テニス同好会もそのうちの一つ。

現在会員は20人で、ゲスト参加の希望者を含めると30人を超え、年々増加しています。調布市民コート（多摩川及び深大寺）を使用し、毎週月、金曜日10時～12時に開催しています。メンバーの年齢は40～80歳代ですが、現役若手の入会希望者も考慮して、昨年度から土、日曜日のコート確保にも努力しています。試合は全てダブルスで、1セット4ゲームマッチで行います。パートナーや対戦相手は乱数表で決めるため、毎セット、男女、年齢を問わずパートナーが変わり、参加者全員が楽しめるようになっています。

最近はラケットが軽くてボールがよく飛び、少し慣れれば容易に打てるようになりますが、飛んでくるボールの位置を

出来るだけ早く予測して、打ち返しやすい位置に自分の体を運んでボールを待ち構えることが肝要です。これが「テニスは手ニスにあらざり足ニスである」言われる所以です。テニスは奥が深く上達すればするほど病みつきになるはずで



年に1、2度のコート外での懇親会も大きな楽しみです。テニス談義や自慢話それに加えてカラオケで

大いに盛り上がります。写真上は2019年3月28日に行った懇親会の様子です。腕に覚えのある方、無い方を問わずテニスに興味のある方、ぜひチャレンジしてみませんか。ストレス発散すること請け合いです。

**【クッキングパパ】 代表 舟久保賢一（昭55法）****新顔同好会—稲門会関係者5人が料理教室で大奮闘**

毎月第一土曜日10時から西部公民館で活動している料理教室です。稲門会関係者は5人ほど。厨房機器、食器類は全て揃っており、エプロンと持ち帰りのタッパーを3～4個を携え身一つで集まるだけです。毎回、先生が季節に合わせ考えたレシピを基に、和洋中いずれかをメインに3～4品の料理を作ります。材料は全て先生が料理毎に準備してくれています。初めの1時間ほどで、先生がレシピに沿って料理ごとに作り方を説明します。これが終わると、3つの島に別れて一斉に料理に取りかかります。再度レシピを確認する人、早

速材料を切り始める人、まずは鍋を取り出す人、様々です。材料を丁寧に切る人、いい加減に切る人、材料を入れ忘れる人、手順をすっ飛ばす人、実に様々で、それぞれの性格が如実に表れます。あちらこちらで、「先生！先生！」「これどうすんですか？」「味見て下さい！」といい年した男どもの声が出始めます。それに応える先生は大忙し、朝のジョギング分は十分賄えます。そうこうしている内に1時間半ほどで料理が出来上がります。後はビール片手に食べながら「ワイワイ、ガヤガヤ」。タッパーに入れて持ち帰った料理を食べた妻は「美味しい！お父さん凄いな」と。こんなに楽しい料理教室、あなたも参加してみませんか。

**【語ろうアースカフェ】 代表 山田和子（昭49文）****「セルビア講座」「南アジアの食文化講座」実施、10月から「ブルガリア講座」開講**

2019年3月24日、31日、「語ろうアースカフェ」主催「セルビア講座 混乱から出た美しさ～セルビアの過去と現在～」（全2回）を開催しました。講師はセルビア出身のパヴコヴィッチ・ミリツァさん（早大政治研究科博士課程4年）。セルビアに関する講座は珍しいからかフェイスブックで反響があ

り、定員50名の会場は両日満席。テーマは第1回が「ヨーロッパの火薬庫の真ん中—セルビアの歴史と政治」、第2回が「ヨーロッパの未知な宝物—セルビアの自然と文化」。

彼女が4歳の時にユーゴスラビアが崩壊。その後、同じ家に暮らしながら国の態様・体制が3回も変遷。子供の時から友人と政治について語っていたそうです。冷静に自国を分析し、時には辛辣に、またユーモアたっぷりに語りました。戦争中も青春はある。1999年のNATO空爆の時でも停電が

なく PC が使えるパン屋に皆で集まり、高校の卒論を書いた思い出話は印象的でした。最後に6月に帰国し、国づくりに貢献したいと決意を述べました。セルビア講座の終了後、5月11日、「南アジアの食文化講座」（全3回）を開講。参加者35人を集めましたが、残念ながら講師が急きょネパールに帰国したため、6、7月に予定していた講座と料理講習会は中止に。

次回10月開講の講座ではブルガリアを取り上げます。講座名「バラとヨーグルトの国、ブルガリア」。第1回10月5日「ブルガリアはどういう国？—概要、地理、挨拶、言語—」、第2回11月2日「ブルガリア人が歩んできた道と日本との関わり—歴史及びその歴史における日本との接点—」、第3



回2020年1月11日「日本人の知っている、または知らないブルガリア—文化と観光地—」、第4回2

月15日「ブルガリア料理はどんな味？—料理—」。講師：アントニオ・アナトリエフ・アンゲロフ（早大大学院国際コミュニケーション研究科修了（2019年3月）

（写真上、左アントニオさん、右2人ブルガリア大使夫妻、中左筆者）  
問い合わせ先：山田和子 kazuko.yamada@jcom.home.ne.jp

## 元気はつらつ！同好会

【女性の会】代表 山田和子

### 新年会・ホームパーティ、春の散策・ランチ会

女性の会は奇数月に調布界隈で気軽なランチ会を行っています。1月は新年会。1月27日リーダーの山田の家でホームパーティを開催しました。14人が参加（写真下）。正月料理も飽きた頃なので、バルカン半島の料理



アイヴアル、赤パプリカのマリネ、ハンガリアングラシーシュを加えた洋風料理を作りました。よもやま話で盛り上がり、瞬間に時間が過ぎました。今年も女性チームはパワフルです。

5月4日は「春の散策とランチ会」。神田錦町の学士会館で日仏合作ドキュメンタリー映画「千年の一滴 だししょうゆ」鑑賞、日頃当たり前のように使っている調味料の千年にわたる歴史に感動。終了後、館内のレストラン『二色』で会食、「ミニうな重天麩羅御膳」を美味しく頂きました。そして若葉の緑美しい北の丸公園を散策。皇居では新天皇即位後初の一般参賀があり、そこから流れてきた人たちも加わり華やいだ雰囲気でした。大型連休中だったせいか参加者は4人。

参加者（敬称略）

新年会：大谷裕子、大友芙美子、川島秀子、桑原貴子、竹下裕美、田島雅世、谷口恵子、塚田碧、戸坂千香子、濁川マサ、松野房子、松村葉子、涌田みちる、山田和子

春の散策とランチ会：小林正子、濁川マサ、堀井時枝、山田和子

## 【ボランティア・ネットワーク Bor・n】

代表 坊野美代子（昭53教育）

### 2019年度は活動を絞って活発な展開目指す

5月1日に元号が改まり、祝賀ムードが調布の街にもあるようです。Bor・nでは調布特別支援学校の土曜余暇活動のボランティアを募集してきましたが、2019年度はいったんお休みにします。主な理由はイベントに参加者希望する子供たちが少なくなってきたためです。次年度以降、精選して実施する予定です。これに伴ってBor・nも、今年度は活動を絞り、今後の方向性を探りながら、障害のある人もない人も共に支

え合うために、できることを考え、支援していきます！

今年度の活動は、次の通りです。

- 7月下旬：「ちょうふの風」ボランティア
- 1月下旬：Bor・n 発達障害講座 Vol.4「音楽の力（仮題）」
- 12月14日（土）：調布特別支援学校 PTA 主催「ちょうふまつり」ボランティア
- 2020年3月：Bor・n 懇親会

このほか「調布ぶれジョブ」（障害のあるお子さんが、街のお店で週1回、1時間だけ働く体験）の活動にも取り組んでいきます。

## キテネプロジェクト

### 「関節の痛い人 大集合」

初の医療講演会に満席の80人、熱気に包まれる

担当幹事 松野宏



3月30日(土)午後、場所は調布市の映像シアター。ここで調布稲門会の活性化チーム、キテネ主催による初の医療講演会、題して「関節の痛い人 大集合」を開催しました。講師は慈恵医大第三病院整形外科医師、角田篤人先生。同先生の手術を受けた当会会員のおついでで実現したものです。

会場は80人収容のホール。参加者募集は当初思うように捗らず満席を疑問視する声が聞かれたところですが、早稲田大学の名を冠した講演会であってガラ空きはありえない、満席であってこそ参加者から高い評価を得られると考えをチェンジ。そこで範囲を単に会員に止まらず近隣稲門会さらには一

般市民にも広げていったところ、最終的には飛び入り参加もあって満席に（写真左）。とはいっても当日、外は桜が満開。参加申し込みはしたが花見にとられるのではないかと始まるまではそれはそれは気を揉みましたが、これが全くの杞憂に終わって、関係者一同ほっとしたものです。

講演は講師より関節の痛み・最新の治療法等、一般知識の解説と、最近よく耳にするロコモティブシンドローム（運動器症候群）の解説があり、参加者は講師の懇切丁寧な指導によりロコモ予防体操を実技で教わりました（写真下）。



次いで実際に人工関節置換手術を受けた会員から手術に至る経緯やその状況、費用までの体験が語られました。講師との質疑では参加者から日々の悩みが切々と吐露されるなど時間ぎりぎりまでやり取りが交わされました。参加者から満席の声が多々聞かれ、実り多い講演会とすることができました。

## 2019 新年会

### 長友市長披露の秘話にも感激、47人が新年祝う

担当幹事 嶋田浩一（平2教育）

2019年1月20日（日）、調布クレストンホテルで新年会が開催されました。来賓の長友貴樹調布市長、新入会員、現役大学院生各1人を含む総勢47人の盛況ぶりでした。長友市長のご挨拶では今年のラグビーワールドカップそして来年の五輪・パラリンピックがこの調布の地でも開催されることが大きく伝えられる中、それにもまして印象に残るお話を頂きました。

それは1964年の東京オリンピックの聖火リレー最終ランナー坂井義則氏のことです。1945年、原爆投下の1時間半後に広島で生まれた坂井氏は五輪開催の年に早稲田大学に入学します。陸上選手として競技に出場することはできませんでしたが、平和の象徴でもある聖火リレーの最終ランナーに大抜擢されたというお話です。こんな素敵なエピソード

をわざわざ準備して頂いた長友市長に感謝すると同時に、この事実を知ることができただけでも今回の新年会が少なくとも私（1964年生まれ）の中では『特別な日』となりました。

さて新年会では、「各サークルの活動報告」に加え「潮田幹事のピアノリサイタル」や「福引き抽選会」で大いに盛り上がりました。特に福引きでは一番の豪華賞品が新入会員の山口泉さんに当たり、図らずも会に花を添えてくれることになりました。

最後は恒例となりつつある(?)『人生劇場』をみんなで唸り、そして『校歌』をみんなで高らかに斉唱してまだまだ興奮冷めやらぬ様子。

閉会の挨拶で堀龍之介副会長が「これほど活況のある・・・」と語ったその言葉こそが、今回の新年会を象徴している、これまでになくほどの楽しい印象の新年会でした。

（新年会の写真は次ページをご覧ください。）



1月20日の新年会。岡田会長の挨拶（写真中）、椎原前会長音頭で乾杯（写真左）。最長老の大道信敏会員（昭17商）のご挨拶も（写真右）。

**短信・お知らせ**

◇**新会員紹介**（前号発行後入会=敬称略、氏名、卒年・学部）

[正会員]長瀬進（昭55法）、谷口恵子（平8政経）

◇**年会費振込先のご案内**（口座名「調布稲門会」）

ゆうちょ銀行 当座 00120-8-101851

みずほ銀行調布支店 普通 0997965

<編集後記> 調布稲門会は再来年2021年にめでたく創立40周年を迎えます。これからその記念事業の内容が固まってくると思いますが、会報『紺碧』も40周年記念増ページ特別号の発行を検討しています。それはさておき『紺碧』は一足早く今号で第50号の節目を迎えました。財政難でモノクロ印刷を余儀なくされた号もありましたが、カラー印刷の復活とともに、巻頭特集記事の採用や、割付け・見出し・カラー写真の工夫等、会報内容の刷新に努めてきました。その効果も徐々に上がってきたと自負しています。さて今号では調布三田会との交流を特集しました。いつの時代になっても、どこに行っても「早慶」、「稲門会・三田会」の関係は切っても切れない関係だなあ、と痛感しています。（高原浩 記）

<p>深大寺そば 創業文久年間 ご宴会・俳句会・御法事 <b>元祖 嶋田家</b> 住所 〒182-0017 東京都調布市深大寺元町5-12-10 電話 042-482-3578 FAX 042-499-6655</p>	<p>早稲田大学商議員 調布稲門会会長 <b>岡田文男</b> 自宅 〒182-0011 東京都調布市深大寺北町6-8-13 電話 090-1819-5619 メールアドレス: fumi3248@akane.waseda.jp</p>	<p><b>林建設株式会社</b> 取締役社長 <b>林 清一</b> 住所 〒182-8512 東京都調布市小島町2-56-3 電話 042-486-1111 FAX 042-486-1120</p>
<p>旭化成建材(株)指定工事店 外壁塗装・屋根塗装 <b>株式会社住まいるスズキ</b> 代表取締役 <b>鈴木光孝</b> 〒182-0023 東京都調布市染地3-5-65 電話 0120-080-242</p>	<p>新技術 UV プリント 立体物などにフルカラーでダイレクト印刷 記念の贈答品やオリジナル製品をお求めの方に 名刺・ショップカード・ポストカード 記念誌・自製出版・アルバム等 <b>303印刷</b> <b>UHI 堀内田平和堂</b> ☎03-3300-7301</p>	<p>イベント・パーティー <b>(株)正直屋グループ</b> 住所 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-7-10 電話 03-3853-1171 FAX 03-3853-1493 <a href="http://www.shojikiya.co.jp/">http://www.shojikiya.co.jp/</a></p>
<p>相続を争族にしないために、 公正証書遺言をお勧めします。 行政書士堀内綜合法務事務所 行政書士 堀内正之 〒182-0035 東京都調布市上石原3-12-8 電話・FAX 042-499-1300 HPは「調布 行政書士 堀内」で検索</p>	<p>本格カレー&amp;ダイニング <b>M's Kitchen</b> エムス キッチン 住所 〒182-0024 調布市布田4-2-7 ホテルノビス調布1階 電話 042-444-2185 調布駅1分 飯野病院西側 月曜日定休</p>	<p>宿泊・宴会・婚礼 <b>調布クレストンホテル</b> 住所 〒182-0026 調布市小島町1-38-1 調布パルコ8~10F 電話 042-489-5000 FAX 042-489-1106 <a href="http://www.crestonhotel.jp">http://www.crestonhotel.jp</a></p>
<p>早稲田大学賛助商議員 調布稲門会 顧問 <b>元木 勇</b> 自宅 〒182-0003 調布市若葉町2-22-10 電話 03-3300-4554 FAX 03-3300-8728</p>	<p>新しい食文化を創る <b>株式会社山田屋本店</b> 代表取締役社長 <b>秋沢淳雄</b> 住所 〒182-0024 東京都調布市布田2-1-1 電話 042-482-4585 FAX 042-482-4572 <a href="http://www.okomekan.net/">http://www.okomekan.net/</a></p>	<p>早稲田大学商議員 調布稲門会 顧問 <b>椎原大典</b> 自宅 〒182-0022 東京都調布市国領町8-2-9 ライフタウン国領1-426 電話・FAX 03-3430-4338</p>